

迎春

1997年1月1日

洛友会役員

事務局	常任幹事	常任幹事長	北海道支部長	東北支部長	中部支部長	中国支部長	四国支部長	九州支部長	北陸支部長	関西支部長	東京支部長	副会長会長	副会長常任幹事長
			松木	神戸	大内	池内	大家	近村	大園	近藤	大島	小島	大嶋
			俊	磐	義尚	繁	耕	健一	穎	興久	文見	幸島	泰上
			博	夫	根	則	寛	和	治三郎	彰彦	彦三郎	直夫	一治

洛友会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164



年頭の辭

中部支部顧問 本多 静雄(大正13年卒)



電気工学科を卒業したので、その時には逓信省は前島蜜氏以来の技術省となり、電信電話はもとより電気局、航空局、管船局、灯台局などがあり、工務局長は稻田三之助さんで、電信課長は高田善彦さんであった。

私は前世紀の生まれで、即ち一八九八年の1月5日が誕生日である。

それで、此の正月に百回目の誕生日を迎えた。百才の人は十万人に一人位の割合だというから、私も便々としている内に徒に年を重ねたものである。

百才になり自ら百寿翁と名乗つており、周囲の人々も百寿翁と呼んでくれるようになつたが、生憎と古い友人達が次々とあの世とやらへ行つてしまい、私は昔話をする対手が無くなつて困っている。

私は大正13年の春、京都大学の

高僧の「悟り」ではない。一種の

此の上は此の一年間を無事に過ごすと、来年の正月には百一回目の誕生日を迎えることになる。そこの太陽の周りを橢円を描いて百回だけ巡つたことになる。

別に太陽の周りを百回巡つたて格別のことはないが、一区切りにはなる。それまで生きて見たいくとも思う。生きたところが何とも仕方のないものだが、此の頃、若い時と違つて何時死んでも良いと思うようになった。これは仏教の

諦めに近い心境である。ここまで便々と生きたのだから、何時死んでも差し支えないと考えただけである。

次に去年一年を振り返って考えてみると、沖縄の問題が一番私の注意を引いたと思う。何か感想を書くとすれば此の問題以外はない感じた。

考えて見ると、太田昌秀知事は偉いと思う。沖縄の苦痛を端的に主張している。戦争の苦悩をなめた上、駐留米軍のために法外な土地を占有されているのに、その上、いたいけな少女まで強姦している。

戦争直後の昭和23年頃だったと思ふが、私は故郷の復興と元気を付けるために、ここ愛知県の三河国の猿投村で文化講座を開いたことがある。

そのとき金森徳次郎、柳宗悦、加藤唐九郎、吉田紹欽、吉田堯文、谷川徹三さんなどが講師として来てもらひ三年程続けた覚えがある。そのときまたま金森氏と柳氏が私の自宅へ来て、同席したのを傍らで聞いてみると、柳氏が金森氏に「憲法第九条があるのに、自衛隊を認めるのはおかしいではないか」と言つたのに対し

「それは夜中に女性が外出する際には、呼子の笛かステッキ位は持つても良いということだ」

と言つたのに対し柳氏は

「それも止めたらどうですか」
そう言われたのに、こっちが吃驚したものであった。柳さんが本質的な平和論者であると感じたものである。

それに比べて米国の軍隊が日本国に駐留しているのは、私にはどうも解せない。戦後、50年も駐留している占領軍そのままで、何の為か、私には判らないし、安保条約とか言つて言いくるめているが私には一切判らない。

沖縄の苦痛は良く判る。占領軍は50年以上たつたら撤退すればよいと思う。米軍も遠慮しながら駐留しているが、それでも邪魔だと思ふ。最新の兵器類を持つているのだから、時間が少しかかるかも知れないが、戦争が何處で起こつても米国は対応出来ると思う。

世界の警察を以て任ずる米国には少し思い上がりがありはしないか。

私は日本は現在の状態で二度と戦争を起こす憂いはないと思うので、監視は必要でない。それに米国は内政干渉がましい事を言つてくる。日本の現在の繁栄が米国の応援の元で生じたことは肝に感じているが、駐留軍は如何なる名目

でも困る。

沖縄だけでなく日本の国からの米軍の撤退を求めるというのが、私の現在の心境である。

博士学位授与式

9月27日(金)京大会館において、博士學位授与式がおこなわれ洛友会会員では、次の方々が授与されました。(敬称略)

相澤輝昭(昭38年電気卒)

渡邊日出雄(昭59年電II卒)

宮田浩一(昭60年電子卒)

傳 康晴(昭63年電II卒)

(京大広報より)

教室だより

電気系教室懇親会

秋の講演会ならびに懇親会

恒例の秋の懇親会行事が平成8年10月18日(金)の午後、電気総合館中講義室および総合人間学部(旧教養部)生協吉田食堂で開催された。

電 气 関 係 教 室
財 団 法 人
理 事 長 矢 森 智
教 官 一 同

関 西 電 气 保 安 協 会

理事長 矢森 智

フジテック株式会社

取締役社長 内山正太郎

叙勲受章

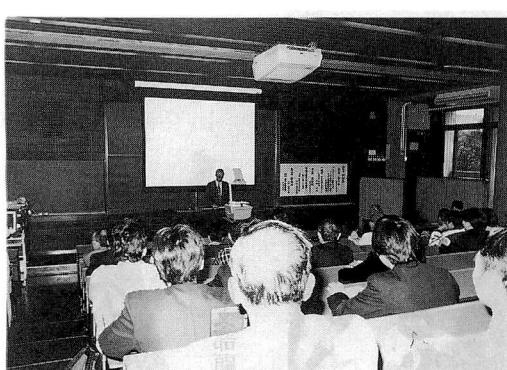
池上淳一 京都大学名誉教授

(昭和18年卒)は11月3日、一九九六年秋の叙勲者として、「勲三等中綬章」を受章されました。衷心よりお祝い申し上げます。

迎 春

会員

一九九七年一月一日



第一部・講演会

第一部の講演会では、本年は電気系教室の大先輩である木嶋昭名教授(昭和26年卒)、NTTデータ通信(株)信国弘毅副社長(昭和34年卒)の御二方のご講演をお願いした。始めに、宅間董教授(電気工学専攻長)の司会のもとで、松波弘之教授(電子物性工学専攻長)から開会の挨拶があり、その後、信国弘毅副社長に「ソフトウエアの品質管理—より良い情報サービスを求めて—」という題目でご講演して頂いた。

日本の情報産業の構造の中でNTTが重要視しているものとして、

情報サービス産業、コンピュータ産業、電気通信事業をあげられた。

一九八八年にNTTデータ通信(株)

として分社独立したが、電電公社

技術先導的事業を守りながら、

通信とコンピュータを結合させた

オンラインシステムの開発や官庁

へのサービスを含めた大規模シス

テムの開発等の例を話された。

システムづくりの心構えとして

は、「温もり、先見性、創造性の

あるシステムづくりを目指し、ユ

ーザーが必要とするシステムづく

りを行うこと」を強調された。ま

た、システムづくりの特徴として、

「ソフトウェアは目に見えない」、

「ソフトウェアひとつで何でもつ

くれる」、「システムづくりは知的

な生産活動」等の特徴をあげられ、

その問題点についても言及された。

そして、問題解決には、システム

づくりの前工程の誤りを後工程に

持ち込まないこと、源流で品質を

作り込むことといった源流管理の

重要性を述べられた。

最後に、要素技術の進展と産業

社会の変化を背景にした次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

これらの発見が、電磁気学の歴史

上に大きな影響を与えたといふ。

最後に、NTTにおける次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

これらの発見が、電磁気学の歴史

上に大きな影響を与えたといふ。

最後に、NTTにおける次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

これらの発見が、電磁気学の歴史

上に大きな影響を与えたといふ。

最後に、NTTにおける次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

これらの発見が、電磁気学の歴史

上に大きな影響を与えたといふ。

最後に、NTTにおける次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

これらの発見が、電磁気学の歴史

上に大きな影響を与えたといふ。

最後に、NTTにおける次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

これらの発見が、電磁気学の歴史

上に大きな影響を与えたといふ。

最後に、NTTにおける次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

これらの発見が、電磁気学の歴史

上に大きな影響を与えたといふ。

最後に、NTTにおける次世代情

報サービスの取り組みについて述

べられた。コンピュータ技術やネ

ットワーク技術の驚異的な進展、

および規制緩和やグローバルな競

争といった社会の変化の中で、カ

ードビジネスの取り組みを例にし

て、NTTにおける次世代情報サ

ービスの概要について語られた。

つぎに、木嶋昭名教授から、「雑感—電磁気学の歴史より—」

という題目でご講演して頂いた。

細かくお調べになつた年表を示さ

れながら、興味深い事例を雑感と

してお話しされた。まず、一七九

九年のボルタの電池の発明(電気

の発明)について、エピソードも

含めて、その前(一七八〇年)のガ

ルバニによる蛙を使った動物電気

の発見に関する歴史について、そ

の発見に関係づけて語られた。ま

た、アンペアに先んじて発見され

た一八二〇年のエルステッドの電

流の磁気作用の発見では、マッハ

ーの発見が記載されている。

洛 友 会 報

しも行われていないこと、就職決定するまでに企業実習の体験をしたいこと等を語った。尾崎正太郎君(修士2回生)は、学生生活を振り返つて3回生の授業が急激に忙しくなった経験や教室内のコンピュータシステムを充実して欲しいといった希望を語った。最後に、川西哲也君(博士2回生)は、自身の就職経験を踏まえて、大学の研究生活における理論的思考の重要性、および大学と企業との研究環境や研究姿勢の違いについて述べた。この後の質疑応答では、教官や先輩の方々から、就職枠の実情や工場実習取りやめの経過についてのご説明、あるいは電気的な思考の重要性、起業マインドの育成等について、種々のご意見を頂いた。

第三部・懇親会

第三部の懇親会は吉田(旧教養部)生協食堂の2階部分を借り切つて、午後6時より宅間董教授の司会で開催された。松波弘之教授からの懇親会開会の挨拶の後、西川禪一名誉教授にスピーチとともに乾杯のご発声を頂いた。第一部でご講演して頂いた御二方の講師も含めて、賑やかで楽しい懇親の場をもつことができた。最後に稻貝裕三氏(日立製作所関西支社)から挨拶を頂き、午後8時前に散



教官の異動

本年の懇話会行事には、加藤進、木村磐根、西川禪一名譽教授をはじめ、企業からも30名以上の先輩のご参加を頂き、学生、教官、職員を含め、講演会、座談会には90名以上、懇親会には140名以上の参加を得て、有意義な行事を終えることができた。末筆ながら、懇話会行事のためにご多忙中にも拘らず講演を快くお引き受け頂いた御二方の講師の方々、座談会にパネラとして発表して頂いた学生諸君、ならびに本行事に参加頂いた諸先輩の皆様に心より厚く御礼を申し上げます。

担当幹事高岡義寛記

(昭和49年卒)

平成8年12月1日付にてつぎの異動が発令された。

電子物性工学専攻
電子物理学講座(プラズマ物性
工学分野)
橋邦英教授の助手として

中村敏浩(京都大学理学博士)

退官記念パーティ

矢島脩三先生退官記念パーティー(矢島脩三先生退官記念会主催)

日 時 平成9年3月29日(土)14:00~16:00
場 所 京都大学工学部電気総合館 大講義室
題 目 「コンピュータ開発と論理回路理論」

連絡先
TEL 075-211-5111(代表) FAX 075-254-2529

情報工学科教授矢島脩三先生におかれましては、学内の定めにより来る平成9年3月31日付けを持ちまして京都大学工学研究科を停年退官されることになりました。つきましては先生の御功績を記念し、下記の通り退官記念講義およびパーティを行ないますのでお知らせさせて頂きます。

最終講義
日 時 平成9年2月28日(金)
場 所 工学部電気総合館大講義室
連絡先 TEL 075-253-5321(松木純也)(TEL 075-253-5356)
麻生武彦 (TEL 075-253-5919) 北野正雄 (TEL 075-253-5322)
(FAX 075-253-5875) Email: oa@kuee.kyoto-u.ac.jp
TEL 075-253-4973

**左記の通り、両教授の退官最終講義ならびに退官記念会を開催致します。
ぜひ御参加下さいますようお願い致します。**

小倉久直・安陪稔両教授退官最終講義

ならびに退官記念パーティーの「J案内

迎春
一九九七年一月一日

株式会社
村田製作所
取締役社長 村田 泰隆

株式会社
日本電池
取締役社長 根岸 茂

GS
株式会社
電気評論社

株式会社
近畿地方発明センター

財団法人

財团法人
応用科学研究所

記念講義、シンポジウムには広く一般の方の御来聴をお待ちしております。
この記念事業に関する詳細は浜口(hama@kuis.kyoto-u.ac.jp)または武永
(075-253-5392/takenaga@kuis.kyoto-u.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

会員寄稿

鞍山昭和製鋼所の電気設備

和田壽太郎(昭和10年卒)

戦後既に50年経過した今日、各種の情報に刺激されて遅まきながら戦中の記憶をとりもどし、当時の製鉄所の電気設備の特異性を記録として残す可く筆を執った次第である。

1 特 徴

(1) 鉱山保有

日本の製鉄所と異なり鉄の原料鉱山(貧鉱、富鉱夫々別地域、明治42年発見)を近距離に持つていて。貧鉱の鉱山(露天掘)を液体酸素を使用した独特の爆破粉碎処理をし、製鉄所まで約15kmの距離を電気機関車で運搬した。更に別地に富鉱鉱山を二ヶ所保有している。

(2) 貧鉱処理技術開発

前回述べたが、大正の末期磁力選鉱技術を世界で初めて開発今日に及んでいる。粉碎選鉱焼結還元処理で富鉱となり溶鉱炉に挿入される。

(3) 終戦時の規模

終戦当时、東洋地区の一製鉄所として最大の出銘量を誇った。又、本溪湖、東辺道の二製鉄所が合併

して満州製鉄株式会社となつていただ。当時米国が一億屯の鋼材生産であったが日本はその十分の一に達していなかつたと記憶する。

(4) 工場敷地

製鉄所の敷地が広いので各工場の配置が日本に比べて非常に余裕がある反面、原料製品の運搬距離が遠い。利点は鉱碎や平炉碎等の堆積場がある点である。昭和19年7月29日米軍による空襲があり、溶鉱炉付近が爆撃されたが大した損害はなかつた。

2 電源設備

電力供給は発電と受電のコンビ

で受電が約三分の一を占めた。創設期昭和5年旧昭和製鋼所(旧満鉱から154KVの撫鞍送電線を建設、鉄が鞍山より約130km離れた撫順炭鉱から154KVの撫鞍送電線を建設、鉄鋼所は敷地に一万五千KVA×四台の変電所を建設保有した。発電所は当時一万KVA×二台の設備であつた。昭和13年頃より製鉄所の設備増強と共に発電所も増設を図り

た。又、二次変電所の変圧器に1

万台八千KW×二台を新設、電力の補給に応じた。電気設備も受電々圧変更と共に二万台×1×四台とした。又、二次変電所の変圧器に1

万台八千KW×二台を新設、電力の補給に応じた。電気設備も受電々

圧変更と共に二万台×1×四台とし

た。又、二次変電所の変圧器に1

万台

を用いる。この建設費は土地と共に大変なものである。終戦当時冷却塔は四基あった。(下部直径30m、高さ50m)又、電気機関車の直流電源として当時日本でまだ数少ない水銀整流器を用いて数個所に配置した。

3 電力の主要用途

他の製鉄所と異なる点は、約七億屯以上の貧鉱々山、更に四億屯の富鉱々山を持っていたのでそれぞれ約15km、45kmの送電線を持ち鉱山の電力供給に応じた。又、電機関車を用いたので鉱山でも直流通電源を必要とした。一製鉄所の各種の輸送を全部電気機関車に依存したのは東洋では初めての試みであった。富鉱々山開拓記

4 電 圧

昭和12年に予而から検討中であった交流モーターの電圧を高圧六千V、低圧四百Vとした。これは東洋では初めての試みで日本国内のメーカーにも交渉に行き爾後の発注モーターの電圧を変更したものである。

当時独逸では既に380Vを用いていた由。昭和6年から15年まで154KVという電圧を一需要家として持つていたが日本国内では例がなかったと思う。昭和16年に当時の満州では唯一の電力会社満州電業(株)から前記の撫軒送電線が鴨緑江、205km水豊からの送電となり、電圧

を154KVから東洋初の220KVに昇圧する申入れがあり、更にこの電圧は需要家には保持させないとのことでした。当社は受電圧として44KVを設定、新しい受電設備を設置した。(三ヶ所)又、当社は早くから電気機関車を採用していたがその直流電圧を三千Vとしていた。これも又日本国内の実例より早い昇圧であった。

5 後 記

(イ) 昭和10年入社時に電気の上司として安食三郎氏がおられた。この方は八幡製鉄所出身の立派な技術者で上記のモーター電圧昇圧のご指導を戴いた。

(ロ) 昭和16年には同じく八幡製鉄所から岸原重治氏が電気部門の顧問として来られた。この方は京大出身で京大の本野先生、東大の某先生と共に当時日本の直流三貴人として有名だった。

(ハ) 前述の鉱山爆破を世界で初めて開発したのは久留島秀三郎氏(九大出身)又磁力選鉱は梅根常三郎博士(京大冶金出身)で、この二人が当社開闢の最高の功労者である。

(二) 終戦引揚げ後昭和24年頃、東京巢鴨のGHQの部隊に出頭を要請されて終戦時の鞍山の電気設備の概要を説明したことと一生忘れられない。

(平成8年11月6日記)

無線通信研究

100周年に寄せて

郵政省通信総合研究所長
古濱洋治(昭和38年卒)

本年から数えて丁度100年前の一八九六年(明治29年)10月、我が国は無線電信の研究を始めています。

この一年前の一八九五年に、イタリアのマルコニが無線電信実験に成功しています。このマルコニの無線電信実験成功の一年後に、通信省電気試験所において無線電信の研究に着手し、翌年の一八九七年(明治30年)には、松代松之助氏が東京京橋の月島海岸と沖合いの小船との間で無線電信の実験に成功しています。

この技術は海軍にも移転され、やがて三六式無線電信機へと発展し、明治38年(一九〇五年)5月27日の日本海海戦における信濃丸の電信利用につながり、これが日露戦争を勝利に導いたことは、歴史が教えるところです。この一世紀の間に於ける電気通信技術を中心とした無線技術、即ち電波技術の發展には驚くべきものがあり、電波技術なくして今日の私共の日常生活を考えることができない程になっています。

我が国における電波研究のルーツはここにあると考えられ、また当通信総合研究所が昭和63年まで電波研究所であつたことを思い起こすでもなく、当所のルーツもここにあります。このため平成8年10月24日に大手町のサンケイ・ホールにおいて、当所の主催、通商産業省電子技術総合研究所、NTT、NHK、KDD、(株)国際電気通信基礎技術研究所、通信・放送機構、(財)テレコム先端技術研究支援センター、(社)電波産業会の共催、(社)電子情報通信学会、(社)テレビジョン学会ほか多数の関係機関・企業の協賛を得て、「無線通信研究100年記念式典・講演会」を行ひ、多数のご参加を頂きました。記念式典では、今日までの100年における先人たちの築いた発展を思い起こすと共に、次の100年における新たな発展の出発点として、決意を新たに致しました。奇しくも我が国が無線電信の研究を始めて100年後の今年、21世紀に向けた科学技術創造立国を目指して、科学技術基本計画が閣議決定され、新しい決意をもつて科学技術の振興に取り組んでいることは、誠に意義深いものがあります。

現在、パーソナル・ユースを中心とした移動無線が急増しており、また通信のマルチメディア化による高速・高品質の無線通信、デジタル放送への期待も高まっています。移動通信の分野において電波技術は、携帯電話端末やパソコンの無線接続は言うまでもなく、屋内や屋外の無線LANからホームエレクトロニクスに至るまで広く利用され、様々なビジネスチャンスが想定されています。また宇宙通信の分野において電波技術は、イリジウムやテレデシック衛星構体通信等の実現の他、ギガ・ビット衛星構想に見られるように光ファイバなどの有線技術と組み合わせて、シームレスなサービスの実現の方向に動いています。このよ

様々な新しい課題が出てきています。電磁波の生体に及ぼす熱効果については、予てよりデータが蓄積され、保護基準が確立されています。然しながら非熱効果については定説がなく、基礎的なデータの蓄積と研究が必要となっています。

自然現象と電磁波との様々な相互作用及びこれらの物理の研究が大変重要なっています。

ごく大雑把に言えば、電波研究100年の前半世紀は電波に固有の主な現象・問題に関する発明・発見の大航海時代であります。後半は様々な分野における電波利用の開花と華々しい展開の半世紀と言えましょう。21世紀のマルチメディア時代を目指して、今特に電波利用は爛熟期を迎えようとしています。多くの若い俊秀の電波利用技術乃至関連分野への参加を心からお待ちしています。

珍獸「ぶちリンサン」

太田 実(昭和24年卒)

今回は昨年の七夕即ち、平成7年7月7日から拙宅に夜な夜な現れる珍動物を、写真で紹介する。

砂漠化の増大、大気汚染・海洋汚
解決されるべき地球規模の課題が
あります。特に、熱帯雨林の減少、

射波による電磁波によるリモートセンシングの威力、成績が、この増大など地球規模の自然環境保全のための計測には、人工衛星を利用

センシング技術の開発が欠かせません。このような技術開発と共に、自然現象と電磁波との様々な相互作用及びこれらの物理の研究が大変重要なっています。

れてかなり飼っていたものと見えて、非常に人懐っこく、好都合なことに写真慣れしていることで、夜行性だが、フランシユを焚いて写真が撮れることで、学術的にも貴重な写真だと思われる。

現地に行つても夜行性だから遭遇するかどうかも分からぬし、



同窓会だより

共振会(昭16／3卒)55周年

いふと申すことは御健良、北風」して待つてゐる。モードル氣も十分あるし面白い。今の季節は一日に2回位來てゐる。悪さはしない。もしご希望の方があれば、返信用封筒を同封してもらえば写真を送ります。長3号、又は洋封筒。

ましてフラッシュで写真を撮る等
ということは、一年掛かりの大事
業だと思われる。目線を合わせれ
ば飛んで来て室内に入ろうとする
し、餌をやりながら身体に触って
いるし、手の平の上で餌を食べて
冷凍生肉を解凍しているので汁を
舐めている。一寸他のことをして

素戔鳴尊、日本武尊ら五座の神を祀る。西参道口で下車し玉砂利を踏みゆくと菊花展あり、七五三詣りに着飾つた幼児にほほえむ。拝殿の奥に望まれる千木、鰹木は巨大で、その神々しさ例えようなし。

低湿地にあり、徳川家康の尽力で
水害の虞れなきこの地にご本尊を
勧請し、繁榮を築いたが戦災で被
害を受け淨財により朱塗の本堂再
建、青空に聳え立ち、參詣して庭
に夥しい鳩の群れ、大正琴発祥地
の碑を見る。

明治村との間のバス停で、
用紹介など、本会ならではの特色
に酔う。8時半お開き。ホテルの
一夜は明けて14日朝快晴に恵まれ
7時半朝食。

由一君の冥福を祈り黙祷し、諸報告、開宴。平成4年3月復活した「時の鐘」録音テープ再生、平野氏より明治村訪問に際し、一般者にては見られない四高物理化学教室と武道場「無声堂」の内部見学の説明、幹事連の仏英独歌唱披露坪井氏から、徳川美術館と博物館

次回は名古屋方面と決り 55周年大会と兼ねる。平成 8年 4月頃より西部共振会幹事の肝入りで平成 8年 11月 13、14両日名古屋方面旅行会に決った。当日 12 時半名古屋駅に集合、新幹線側出口に待機中のバスに搭乗市内観光に出発する。

(1) 大須観音 御堂は始め木曾長良、揖斐三河川の下流の大須郷

伝わる遺品を収める。九展示室あり(1) 武具と刀剣(2)茶の湯(3)書院飾り(4)能装束と舞台(5)奥道具(6)源氏物語絵巻(7)~(9)改装工事中でビデオ室、売店と別棟茶室があり周到な展示を堪能した。

夕刻名鉄犬山ホテルでバス下車、室割入浴、浴衣姿で六時半記念撮影、ことし9月に逝去された永野

(5) 大山城天守閣 天文6年
（一五三七）織田信康の城主以来、成瀬正肥の時、廢藩置県に会い、昭和36—40年解体修理、昭和10、40年に国宝に指定、再指定、4階の最上階へ90段近い階段あり眺望絶佳、天守閣が擬人化されて俯瞰するとすれば、50年の間に農村転じて、高層建築林立の様となるの

を想うと感無量である。

冬雲やジェット機掠む犬山城

(秋田作)

博物館明治村 明治時代を

(6) (秋田作)

回顧し味わうため15棟の歴史的創造物を移築して昭和40年開園した。爾来移築が進んで67棟を擁する。

入場して直ぐ鈴木様の案内で四高物理化(階段)教室の内部のたたずまい、四高武道場内を拝観する。

道場入口の鴨居の上の名札板に平野氏の名札あり。園内で任意食事を済ませ、明治末頃のSL、京のチンチン電車、電動車を利用して見学、2時半表門に集合、バスにて新幹線名古屋駅に帰着し、来年



H 8.11.13 京都大学共振会 於 名鉄犬山ホテル

を約して解散。

百官の通ひし坐漁莊冬紅葉

(西園寺公別邸、秋田作)

秋氣冷ゆ階段教室襟ただす

(岡本作)

永安氏談「来年静岡方面三保松原は如何、洛友会中昭12~16年12月卒迄の6クラスについて『洛楽会』というグループ活動ができて、永安、平野両氏世話される由」

写真はホテル夕食前写す(前列右より)阪本夫人、副島夫人、武田(正)夫人、石井夫人、嘉田夫人、平井夫人、森本夫人、山本夫人、小林夫人、永安夫人、嘉田恵美子氏、(中列右より)嘉田、坪井、平野、大塚、秋田、平井、森本、桧垣、田中、河辺、石井、永安、森の総員29名

岡本弘 記(昭16/3卒)

昭和18年卒業クラス会

省みれば昭和18年9月夏休を返上して繰り上げられた卒業の上、大戦の真只中に放出され、文字通り技術戦線の最先端を担わされた青春の日から有53年、我々の進路はまさに京大電気工学科で学んだ才月によって決まつたと云うも過言ではない。

つづく戦後の復興期にも夫々の分野で各人の能力に応じて全力投球によつて貢献したのも我々の誇りである。

恒例によつて毎年集うクラス会は本当に心置きなくゆるし合つた

平成8年11月18日京阪京都ホテルに集合夕食会をもつた。出席者は19名に同伴夫人を含めて26名、和洋折衷の美食に舌鼓を打ちつつ歓談した。出席の諸氏は伊藤、池上、稻野、岩谷、植田、上之園、氏原、川口、河原、楠本、近藤(文)、佐野、杉根、角田、並木、荷口、山川、山本、森の面々であった。

夫々の思い出話や他愛もない体験談で楽しい一夕を過ごした。

その夜はホテルに一泊の上、明けて19日宇治、伏見方面に行楽を楽しんだ。宇治では真新しい架換中の宇治橋に先陣争いの往時の平

屈託のない同窓の友の集りである。今年は関西在住の当番で次の様な楽しい一時を過す事が出来た。

平成8年11月18日京阪京都ホテルに集合夕食会をもつた。出席者は19名に同伴夫人を含めて26名、和洋折衷の美食に舌鼓を打ちつつ歓談した。出席の諸氏は伊藤、池上、稻野、岩谷、植田、上之園、氏原、川口、河原、楠本、近藤(文)、佐野、杉根、角田、並木、荷口、山川、山本、森の面々であった。

夫々の思い出話や他愛もない体験談で楽しい一夕を過ごした。

川口龍夫記(昭和18年卒)



京都大学18年同窓会 H 8.11.18 於 ホテル京阪京都

室戸寺等のお寺では来迎仏の由来について住職の法話に耳を傾けた。また黄檗山満福寺に参詣して高僧自らの御案内に本尊の弥勒菩薩が布袋和尚であり、それを取りまく、尊者の中にも庶民の信仰となつた数々の尊者の居られる事を知つた。

大陸由來の独特の禅寺の風格にぬかづき、本堂建築の素材にも海上遠く南方より輸送されたチーク材の巨木が用いられ、その柱表にある侵食した珊瑚虫の象眼に依つて往時の大陸貿易の跡を忍び、普茶料理に伝来の中国料理の源流を賞味した。

帰路には伏見の酒造の跡を忍んで、京都駅前に至つて解散した。来年は関東組にバトンタッチしてこの楽しい集いを可能な限り続けて行く事を誓つて、更なるお互の養生を約しつつ別れたのであつた。例年の如く、京阪角田相談役の特別の援助や、その他諸氏の援助を頂いた事を附記したい。

川口龍夫記(昭和18年卒)



卒業四十周年クラス会

昭和31年電気工学科卒業クラス

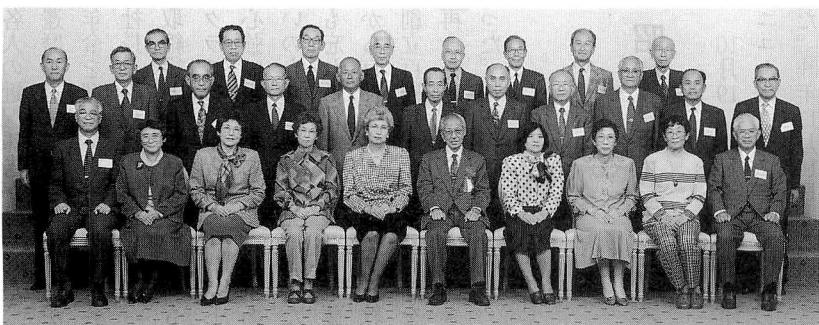
の卒業40周年クラス会が、平成8年10月26日(土)、恩師池上淳一先生、近藤文治先生、竹屋芳夫先生をお迎えして、宇治の花屋敷浮舟園で開催された。

同級生50名のうち、既に物故者が5名あり、45名中31名が出席して、なかなかの盛会であった。

近藤先生のご発声で乾杯の後開宴となり、先生方のお話のあと、

昭和25年卒

東京大会



洛友会 25 年会 H 8.10.18 於 ホテル I・C

平成8年10月18日夜、昭和25年卒の仲間が、レインボーブリッジを間近に見るホテルインター・コンチネンタル東京ベイに集合しました。恩師近藤文治先生をお迎えし7人の夫人を含めて29人の一周年大会を京都で開いた際、これ

から毎年集まろうということになりました。今年は東京で引受けました。パーティに先立ち、時間的に余裕のある人は、ホテルに近い浜離宮恩賜庭園から水上バスで隅田川の数多い橋をくぐりながら浅草まで往復する観光コースに10人、葉山国際カントリーのゴルフコースに4人が参加して、一足早く旧交を温めています。

パーティでは東京側幹事の開会挨拶に続き、ご来賓の近藤先生からお話を頂きました。先生は同期の方の集まりではいつも多数のご夫人が出席されることを紹介になり、25年卒も古希の年令に達したのだから、これからは今まで以上に家族ぐるみの付き合いで余生を楽しんだらどうかとのお話がありました。その後久し振りに出席した人のスピーチを挟みながら、あちこちに談笑の輪ができてきました。最後に来年も関西で集まることを決めて、一次会のパーティは終わりました。

続いてクラブに大半の24人が参加して二次会となりました。眼前にライトに浮かび上がったレインボーブリッジを眺めながら、杯を傾けて夜の更けるのを忘れて語り合いました。

今回の東京大会には、近畿、関東を中心に中国、中部からも参加があり楽しい集いででした。

(美間敬之記 昭25年卒)

裕のある人は、ホテルに近い浜離宮恩賜庭園から水上バスで隅田川の数多い橋をくぐりながら浅草まで往復する観光コースに10人、葉山国際カントリーのゴルフコースに4人が参加して、一足早く旧交を温めています。

パーティでは東京側幹事の開会挨拶に続き、ご来賓の近藤先生からお話を頂きました。先生は同期の方の集まりではいつも多数のご夫人が出席されることを紹介になり、25年卒も古希の年令に達したのだから、これからは今まで以上に家族ぐるみの付き合いで余生を楽しんだらどうかとのお話がありました。その後久し振りに出席した人のスピーチを挟みながら、あちこちに談笑の輪ができてきました。最後に来年も関西で集まることを決めて、一次会のパーティは終わりました。

続いてクラブに大半の24人が参加して二次会となりました。眼前にライトに浮かび上がったレインボーブリッジを眺めながら、杯を傾けて夜の更けるのを忘れて語り合いました。

今回の東京大会には、近畿、関東を中心に中国、中部からも参加があり楽しい集いででした。

洛友会走会(昭16/12卒) 卒業55年記念クラス会



洛友会走会 卒業55周年 H 8.10.30 於 京都ホテル

同会を平成8年10月30日、新装なった京都ホテルで行つた。集る者左記の24名(内夫人9名)。

京都ホテルは開戦直後の昭和16年12月竣工卒業の折の謝恩会を開いた思い出のホテルである。午後6時には全員集合、宴に入った。

京都を平成8年10月30日、新装なった京都ホテルで行つた。集る者左記の24名(内夫人9名)。

京都ホテルは開戦直後の昭和16年12月竣工卒業の折の謝恩会を開いた思い出のホテルである。午後6時には全員集合、宴に入った。

竹屋芳夫記(昭16/12卒)

竹屋芳夫記(昭16/12卒)

和風料理を楽しみ、時の経つもの忘れで歓談し、9時半頃、来年の関東での再会を約して、それぞれ部屋に引上げた。翌日は体力にあわせて自由行動、前日に続いて京都都有いは奈良の秋を満喫した。

集合場所は混雑していたものの、大阪組(バス3台)経路となつた名神高速は非常に空いており、京都組(バス3台)が出発する頃には既に合流場所の琵琶湖タワーに到着するという事態にありなり、混雑を予想していた世話役一同は帰路も順調に流れてくれるのではと甘い期待を抱くこととなりました。

支部だより

関西支部家族見学会報告

関西支部恒例の秋の家族同伴見学会を平成8年10月27日(日)に実施しました。

今年は、関西電力が幹事会社ということもあり大飯原子力発電所の見学を企画しましたところ、本部から近藤・大嶋両副会長にお越しいただいたのはじめ、鷲見支部長以下総勢149名のご参加をいたしました。

会員各位の精進の賜か当日は朝から雲ひとつない快晴。新大阪、京都の2ヶ所にご集合いただきましたが、絶好の行楽日和に加え一週間前の日曜日が総選挙の投票日であったため、各種行事が一週間

昼食後、大飯発電所をめざし出発、車窓からふりそぞく日差し、若干のアルコールがあいまつて多少眠気がさしてきた頃、右手に小浜湾、波ひとつない穏やかな眺望は思わず眠気を忘れさせるほどでこれに見入っているうちに、発電所の建設にあわせて架けられた青戸大橋を通過、ほどなく大飯発電

